

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣南高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和7年2月7日(金) 13:30~15:30
- 3 開催場所 大垣南高等学校会議室
- 4 参加者

会長	竹内 治彦	元岐阜協立大学学長
委員	五十川智宣	大垣ケーブルテレビ代表取締役社長、同窓会副会長
	小山亜希子	(社福) 楽山・杜の会理事
	酒井 吾郎	洲本連合自治会長(書面参加)
	竹中 拓也	太平洋工業株式会社人事部主査(書面参加)
	藤田万喜子	岐阜聖徳学園大学教育学部名誉教授
	藤吉 和彦	サンビレッジ国際医療福祉専門学校校長
	二村 勝	大垣南高等学校育友会長(書面参加)
	三輪 賢司	岐阜県公民館連合会会長
	武藤 幸夫	元高等学校教員
オブザーバー	伊藤 秀光	岐阜県議会議員(欠席)
学校側	川瀬 英樹	校長
	滝 一男	教頭
	古山 晴美	事務長
	今枝 誠	教務課長
	西脇 一徳	生徒指導課長
	折山 真生	進路指導課長
	下野恵理子	特別活動課長

5 会議の概要

(1) 本年度の自己評価について

(ア) 学習指導について

意見1: 進学校として自ら学ぶ生徒の育成に教員集団が一丸となって取り組んでいる。授業だけでなく、家庭や放課後での学習支援、外部講師による指導を含め、きめ細かく行われている。

意見2: 生徒が自ら学ぶように様々な工夫をしている。ICTを通じて一人ひとりの生徒が教員からコメント等をもらえる取組は、生徒の意欲を喚起して主体性を育む上で良い。教員の負担を考慮するとある程度の定型化をしてもよい。

意見3: ICTを活用した学習支援システムづくりは東海随一の実績だが成績の向上につながっていないのであれば、ICTを活用した学習自体が学びに効果的ではない可能性がある。

(イ) 生徒指導について

意見1: 運動靴の「白を基調」とする制限を外すことに対して異論はない。生徒会を中心とした生徒による主体的な取組として、校則の改正が進められていくことが大事である。

意見2: 制服の自由化を含めた改定についても、生徒や保護者の意見を考慮し、生徒に主体的にその是非や方向性を考えさせながら検討できると良い。自由化してもある程度の時間が経てば落ち着くであろうし、本校の生徒であれば心配はない。

意見3: マナーを守り規範を尊重して他者に迷惑を掛けない生活ができています。自分を大切にし、併せて他者も大切にする、人としてあるべき姿を高校生活で学んでいるからと思われる。

(ウ) 進路指導について

意見1: 学力を付けることで進路実現することに加えて、志望動機等で進路実現する方法がある程度通用する時代になった。その点でキャリア教育は意義がある。しかし、若い年代にしっかりと勉強することで基礎学力を伸ばしていくことは重要である。

意見2: キャリア教育を進めていく上で、弁護士や医師のようなキャリアを紹介して、そこを目指せるような指

導があってもよい。

意見3：学生サポーターの導入や岐大特講等の進学意欲を向上させる工夫があつて良い。

意見4：ミニ教育実習等の取組に生徒の進路目標が達成できる工夫が見られた。生徒の自走力を育めると良い。

意見5：生徒の日常の生活と進路等の目標達成への道程が可視化できると良い。自らを振り返るきっかけにもなる。

(エ) 特別活動について

意見1：生徒会活動の活発化は生徒のやる気の表れである。広い視野とデータ等で裏付けられた根拠を持って話し合いや活動ができる生徒を育ててほしい。

意見2：生徒から活発に意見を出しやすい学校の風土を醸成している。意見を出すことに伴い責任が生じることも併せて学んでほしい。

意見3：部活動は大切であり、加入者数が減少していることは残念である。学習活動以外でこの時期にしかできない経験をしてもらいたい。魅力ある部活動をつくりPRしてほしい。

意見4：本校の方から積極的に地域と交流する取組は、今後の社会が人口減少や高齢化に向かう中で重要かつ貴重である。ふるさとの理解にもつながる。

(2) スクールミッションについて

意見1：文章表現やアピール力、分かりやすさにやや難点はあるが、異論はない。

意見2：「～して、～して」という表現が気になるが。生徒が地域行事に参画することが地域に戻ることにつながる。

意見3：「様々な分野の中核として」があつた方がよい。

意見4：これがシンプルでよい。岐阜県教育委員会が実施した高校生の意識に関する調査の結果によると、本校の生徒は文武両道に対する意識と自己効力感が高いと考えられる。提案の通りで良い。

(3) その他

意見1：近隣の普通科の高等学校に対して本校の立ち位置を特徴付けるのは難しいが、中学生や保護者の立場から見た本校の魅力を校内で検討すると良い。

意見2：進路講話や特別講座等における外部の資源の活用は効果があるが、依存によって本校の職員の資質が低下しないように配慮が必要である。

6 会議のまとめ

- ・本校の生徒は信頼が置ける。自信を付けさせて自己効力感を高める取組を行ってきたが、最終的には生徒が自走できるようにすることが大切である。

- ・自己評価・学校関係者評価及びスクールミッションについては概ね理解を得た。本日提示された意見に基づいて、更なる工夫を重ねて地域にとって魅力ある学校づくりに努める。